

幼・保・小・中の主体的な学びをつなぐカリキュラム・マネジメント

研究指定・委嘱地域

桂川町教育委員会(桂川中・桂川小・桂川東小・桂川幼)

研究の目標

幼児期から児童期、青年期への発達や学びの連続性を確保するための教育課程の編成や、幼児教育と小・中学校教育の連携を通して、円滑な接続を図る推進体制の在り方を究明する。

研究の内容

- 視点1: 主体的な学びをつなぐ幼・保・小・中のカリキュラム・マネジメント
- 視点2: 各中学校区における幼・保・小・中の連携推進体制整備

研究主題

「ふるさとを愛し、未来を担う人材を育成するカリキュラム・マネジメント」 ～ふるさと「けいせん」プロジェクトを通して～

研究の実際

■ 視点1: 主体的な学びをつなぐ幼・保・小・中のカリキュラム・マネジメント

- 幼・保・小・中をつなぐ研究全体についての共通理解
- 道徳科や生活科、総合的な学習の時間を通じた幼・保・小・中をつなぐ教育課程の編成

研究の実際

■ 視点2: 各中学校区における幼・保・小・中の連携推進体制整備

- 幼・保・小・中をつなぐ推進体制の在り方
- 合同研修や部会研修等の教員研修の工夫
- 幼児教育アドバイザーの活用

★ 桂川町の実践

桂川町では、「ふるさと『けいせん』プロジェクト」を通して、生活科・総合的な学習の時間を中心に接続カリキュラムの検討を行っています。

地域の特性を踏まえ、地域の「ひと・もの・こと」を活用しながら、「ふるさと『けいせん』プロジェクト」の取組を通して、幼児が小学生に、小学生が中学生にあこがれを抱くような接続カリキュラムを工夫しています。



地域の方に、伝統行事について教えてもらい、町のよさや行事を伝える人の思いを知りました。



【生活科: 幼児に読み聞かせをしている1年生】

★ 桂川町の実践

桂川町では、つながりのある教育活動の創造に向けて、「つなぐ」をキーワードに組織づくりや教員研修等の取組を行っています。

教育委員会を中心として、幼・小・中の合同研修会では、発達段階に応じて4つの部会をつくり、生活科や総合的な学習の時間のカリキュラムの交流を行いました。

第1部会	第2部会	第3部会	第4部会
幼～小2	小3～小4	小5～中1	中2～中3

校内一貫教育推進委員会で検討した内容を連携推進委員会で共有するなど、校内組織と町全体の組織をつなぐような組織づくりをしています。

幼児教育アドバイザーを活用し、部会において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について小学校教員と共有を図りました。

